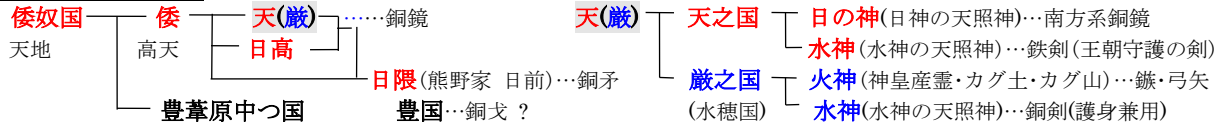


『邪馬台三国志』 王朝の変遷 2/年表

国のかたち・祭器

高天原<前二世紀(北九州)~邪馬台国時代(日向/纏向)>

※太氏・大倭国...銅鐸 三輪オロチ...鉄刀

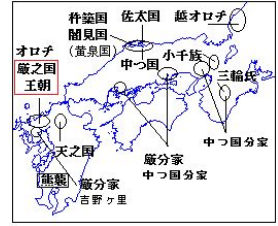


※日高=周系韓族、天=呉太伯ら子孫、歳=夏后帝小康末裔の越オロチ族(宗像家・葦原家・伊都国・三輪氏・小千氏・越智氏ら)、豊国=漢族

王朝の変遷

黄帝一門 太伯子孫 越オロチ 天之国、歳を併合し、が建国 が建国 三輪氏ら 日高国と連合

九州	那珂つ国/天之国	歳之王国	倭国(日高+天)王朝
	縄文中期/前五世紀	前四世紀	前三世紀末
(祭器)	玉つ宝七/日の鏡三	瑞宝十種	銅鏡/十握劍(鉄劍)
(都)	福岡平野の那珂	福岡平野	唐津/那珂/筑紫川流域



⇒(豊)葦原中つ国 ⇒吉野ヶ里に舞い戻る

吉野ヶ里の歳分家、福岡平野に進出し、葦原家を成敗

天(歳)女帝の天常立、豊葦原中つ国の国常立と盟約

攝津三島遷都 淡路島(沼島)遷都

撰津三島鴨族の面足、天之国女帝の王権篡奪

日限の伊婁諾、女帝天の尾羽張に取り入る

九州	豊葦原中つ国王朝	伊都国(歳分家)王朝	倭奴国(天地)王朝	面足政権	伊婁諾政権
	前二世紀後半	前一世紀中頃	一世紀前半	150年代	170年頃
(立役者)	天叢雲	天叢雲襲名	天常立・国常立	面足神	伊婁諾
(天神)	天御中主/高皇産霊/神皇産霊	天叢雲/?/天常立	天常立/?	?/天之尾羽張	
(祭器)	瀧つ鏡・八握劍(銅劍)など瑞宝	銅鏡・天叢雲劍(銅劍)	銅鏡・十握劍	弓矢	銅鏡・十握劍/瓊矛
(都)	早良(福岡平野)/唐津/那珂	春日/怡土(福岡平野)	(天宮)怡土 (都)那珂/春日	攝津三島	(天宮)怡土 (都)福岡平野/沼島



邪馬台国

歳之王国・天(歳)王朝・日本王朝

物部氏

大倭(伊都国分家)、三輪氏、豊葦原水穂国・海部家らと連合

倭奴国王朝の再現 日向天(水)、歳之国と合体

倭奴国王朝の再現 日向天(日)、天(歳)と合体

倭奴国王朝・日神の政再現 和、大倭国・歳勢らと合体

大倭	歳之王国	天(歳)王朝	日本(やまと)王朝	大和(ヤマト)朝廷
	180年代中頃	210年代前半	220年代前半	250年頃
(立役者)	水天神天照大神 / 饒速日(垂仁)	ヒミコ・火明(垂仁)	火明饒速日(垂仁)	神武(磐余彦)/崇神/応神
倭国	天照大神・天鹿兒山(天羽羽)	天鹿兒山(天羽羽)	火明饒速日	日神・高皇産霊
大乱	(祭器)天叢雲劍/鹿兒弓・羽羽矢	真經津鏡・天叢雲劍 / 十握劍/鹿兒弓・羽羽矢	十握劍/神璽の鏡 / 鹿兒弓・羽羽矢/瑞宝十種	神璽の鏡劍
(都)	纏向	纏向	纏向(珠城宮/日代宮)	橿原宮

1 ヒミコ(日神) 日向の天(水)と共に 日神の畿内遷座 倭奴国王朝の再現

2 豊鍬入姫 日向の天(日)と共に 火明饒速日の畿内降臨

3 神功 日向の天(日)と共に 火明饒速日の畿内降臨

4 倭迹迹日百襲姫 日向の天(日)と共に 火明饒速日の畿内降臨

伊婁諾/向津姫の南遷 倭奴国王朝の再現

天孫降臨 倭奴国王朝の再現

海幸彦・山幸彦の争い

神武(磐余彦)東征

日向	天之国王朝	日限(日向)	日向王朝	和(ヤマト)王朝
	190年代初め	南九州	220年代前半	260年代
(天神)	日神・高皇産霊	瓊瓊杵(和)	火火出見(和)	磐余彦(和)
(祭器)	真經津鏡(八咫鏡)	日限鏡(八咫鏡)・草薙劍・曲玉	日限鏡	日限鏡
(都)	(天宮)高千穂宮	笠沙宮(加世田市/西都市妻) 高城宮(川内市)	高千穂宮(都城市)	高千穂宮(宮崎市)/岡田宮

天之国王朝(高天の原) 投馬・狗奴国・熊襲、日向・和

王朝の祭器	伊都国王朝の祭器	天叢雲劍(中細形銅劍)、内行花文鏡	倭奴国王朝の祭器	方格規矩鏡(魏帝鏡も同型)、十握劍
邪馬台国の祭器	歳之王国	天叢雲劍(中細銅劍)/鹿兒弓・羽羽矢	天(歳)之王国	真經津鏡・天叢雲劍/十握劍/鹿兒弓・羽羽矢
	日本王朝	十握劍/神璽の鏡(天照大神之御魂=真經津鏡複製品)/鹿兒弓・羽羽矢/瑞宝十種		
	熊襲に逃げた倭奴国勢の祭器	【天之国(高天)】真經津鏡・天叢雲劍/日限鏡・日矛/十握劍	【日向・和王朝】	日限鏡/鹿兒弓・羽羽矢

年表 (※は「この頃」の意、下線部は邪馬台国側の記事)

西暦	日本	中国・朝鮮半島	インド
BC 2400	(<u>縄文時代中期</u>) ※黄帝一門、蓬萊三島に渡来して海神と共に、那珂つ国建国 2300 那珂つ国王・海神王を兼ね、神国づくり・畑作に入れ込む 2000 ※三内丸山の <u>大集落</u> 、衰退 (<u>縄文時代後期</u>) 1100 ※八ヶ岳近辺の縄文集落、衰退 1050 (<u>縄文時代晩期</u>) 660 ※記紀の神武元年	※炎帝と黄帝、阪泉の野で決戦 ※黄帝、神国中国を興し、神国づくり ※五代天帝の舜、禹に帝位を譲る ※禹の児・啓、神代と決別し夏王朝樹立 ※太伯、荊蛮の地に呉建国 ※周武王、殷を滅ぼし、周王朝樹立 紂王の叔父・箕子を朝鮮に策封 ※周公、二都による封建体制を布く ※韓祖の韓武子、魏祖の畢万、共に献帝(前 676~651)に仕える	※インダス文明、栄える インド・アーリア人、パンジャブ地方に侵入 ※ゾロアスター、天啓を受ける ※ペルシャ、インダス地方併呑
BC 494	480 473 ※太伯ら子孫、九州西北に渡来し、天之国建国 那珂つ国に取り入り、米作り・集落づくりを指導 403 ※那珂つ国、天之国を従え、東海・北陸辺りまで進出 334 327 ※越のオロチが襲来し、那珂(中)つ国を出雲に追放 宗像家、厳之国本家となって、一門を各地に策封 256 吉野ヶ里→後世の伊都国、奈良盆地→三輪氏、 230 撰津→小千氏、北陸→越オロチ(後世の越智氏) 221 北九州・瀬戸内沿岸・山陰・畿内・北陸・東海まで米作り拡大 (<u>弥生時代の幕開け</u>) 206 ※渡来した韓勢、天之国と組んで厳之国を滅ぼし、日高国建国 202 ※厳之国、宗像・遠賀川流域に引きこもり、天之国に従属 ※日高と天之国、倭王朝を共立して福岡平野に都す。 周公の政再現を図る。東進して近畿・東海まで支配	呉王夫差(太伯ら子孫)、越王勾踐(夏王朝末裔)を会稽に降す ※孔子、没す 夫差、勾踐に敗れて自決。呉、滅亡 ※晋から分裂する韓・魏・趙、諸侯に列す ※楚、越を滅ぼす 秦、周室を滅ぼす 韓を滅ぼす。韓人、流浪 魏・斉・燕を滅ぼす 秦始皇帝、中国統一 泰山で封禪 徐福を東海上の神仙三島に送る 秦、滅亡。秦の流民、朝鮮に流れる 劉邦(高祖)、漢朝を興し、皇帝に就く	※仏陀、没す ※マカダ国、ガンジス川流域統一 アレキサンダー王、侵入 ※マウリア王朝、興る ※アショーカ王、即位 ※アンドラ王朝、成立
BC 194	※漢王族、倭に流れ来て国東半島に豊国を賜る 110 ※厳一門の葦原家、中つ国・豊国と盟約し、豊葦原中つ国王朝樹立 福岡平野の早良・唐津・那珂近辺に都し、百余国を封建統治 108 ※吉野ヶ里の厳分家、福岡平野に打って出て、伊都国王朝樹立 豊葦原中つ国を出雲に追いやる 91 漢に朝貢…「地理志」 神国づくり・儒教に沿った政に邁進	※燕の衛満、箕子朝鮮を乗っ取る ※朝鮮王の準、韓氏と語る 斉・秦の流民を馬韓や辰韓に入植 ※漢武帝、泰山で封禪。北ベトナム支配 衛氏朝鮮を倒し、楽浪郡設置 ※『漢書』地理志、「倭人、分かれて百余国。歳時を持って来り」 司馬遷の『史記』完成	マウリア王朝、滅亡
AD 8 25	※天之国女帝の天常立、豊葦原中つ国の国常立と一緒に伊都国を倒し、怡土に倭奴国王朝樹立。ついで天神に立つ 56 ※日高の高皇産靈、十握剣を賜って王朝守護。伊都国、古菓に戻る 57 国常立、後漢に遣いして金印「漢委奴国王」・方格規矩鏡を授かる 67	王莽、漢を乗っ取り、「新」建国 光武帝、漢朝を再興 楽浪郡設置、北ベトナム支配 泰山で封禪 郊祭し、倭の使者に謁見 ※仏教、中国に伝来	クジャン朝、成立
AD 107 150	倭奴(倭面土)国王、後漢に朝貢し、生口 160 人を献上 ※三嶋鴨族の面足神、六代倭王に立ち、撰津三島に都す 三嶋流神国づくりに入れ込む 166 170 ※伊奘諾、七代倭王に立つ 黄帝の神国づくり・天竺の常世づくりに邁進 ※マガダ国王、伊奘諾に養子入りし、豊受皇太神・月神となる。 副都(唐古)・東方の統治を任される。 184 ※三輪オロチと皇太神、反乱 伊奘諾の大妃・伊奘冉を攝津で拉致し、出雲に連行 ※伊奘諾、播磨・攝津の磐石(伊和邑)を急襲 ※皇太神、出雲の月夜見国(黄泉国)で天下分け目の決戦に大勝 大倭に厳之国王朝(邪馬台国)を興し、倭王天照大神に立つ 纏向に都し、天竺流常世づくりに励む 水天神の位に就く。児の天鹿見山も、火天神に昇る ※伊奘諾、日向落ち。蛭子、邪馬台国の人質にとられる ※向津姫、高千穂宮で日神の天照大御神に担がれる 191 真経津鏡(八咫鏡)を天璽と定め、倭奴国王朝再現を模索 192 真心と徳を掲げ、天竺から伝来する天上での政を実践 ※素戔嗚、八俣のオロチ(天照大神・天鹿見山の親子)退治	※蔡倫、紙發明 ※パルティア国安世高、大月氏国シルカセン、中国に仏教を伝える ローマ皇帝の使者、来訪 ※南朝鮮では馬韓、弁韓、辰韓が隆盛 ※マガダ王、天台山から出雲へ 黄布の乱 ※日隈・天(厳)の一派、新羅を篡奪 ※素戔嗚、新羅に出奔 曹操(曹丕の父)、黄布青州軍を破り、30万の兵を得る。漢大將軍に就く	※アンドラ王朝、最盛期 ※クジャン朝カニシカ王、即位 ※マガダ国王、天台山へ
西暦	日本	中国・朝鮮半島	インド

200 204 208	(邪馬台国/高天の原の時代) ※大己貴、葦原中つ国を再建し、安芸・播磨に勢力拡大 新羅から襲来する天日槍(五十猛)軍を宍粟邑で撃破 越のオロチ族と盟約し、西と北から邪馬台国を執拗に攻める ※天照大神、妻の日神と組み、高皇産靈と銘打って高千穂宮に赴く ※天孫饒速日、大倭に天降ったが、急逝	公孫氏、楽浪郡南方の帯方郡開拓 呉、赤壁の戦いに大勝	
220 ～ 225 233 234 237 238 240 245 247 248	※日神と高皇産靈、経津主らを出雲に遣り、大己貴を降す ※天孫火瓊瓊杵、薩摩の笠沙(加世田市)に都し、日前国樹立 ※天照大神(高皇産靈)、火明(垂仁)・大己貴を連れて帰国 大倭で急逝。纏向の石塚古墳に眠る ※日神、素戔嗚らと共に大倭遷座 葦之国王朝を天(葦)王朝に衣替えし、女王ヒミコに立つ 纏向に都し、祝いの八咫鏡(三角縁神獸鏡)を豪族に配布 仏陀の教える常世(石葺き古墳)づくりに取りかかる ※畿内・東海の太氏、大倭家、銅鐸を一斉放棄 ※火瓊瓊杵、日向妻地区(西都市妻)に都し、笠沙宮(投馬国)と呼ぶ ※火照(海幸彦、火明)・火スセリ・火折、誕生 ※ヒミコ、経津主・武甕槌を東国に遣り、常陸まで支配	曹丕、後漢献帝を廃し、魏王朝樹立 ※劉備、(蜀)漢王朝興す ※孫権、呉建国 孫権、皇帝と称し、漢と結盟。亶洲探索 遼東に兵一万を送るが、裏切られる 諸葛孔明、五丈原に陣没 公孫淵、魏に叛き呉の臣燕王と僭称 明帝、冬至の日に郊祭。 正月、司馬宣王に公孫氏征伐を下命 帯方郡の太守、倭に使者を送る ※魏、句麗王・宮を討つ	※アンドラ王朝分裂 ※ペルシャにササン朝興り、パルティア王国滅ぶ ※アンドラ王朝、滅亡 インド、分裂
250 264 266 ～	ヒミコの宗女トヨ(豊鍬入姫)を女王に立て、國中鎮まる 祝いの鉄剣を豪族に配布 土握剣を神璽として女王守護、三嶋流神国づくり(周濠つき古墳)に入れ込む ※火瓊瓊杵逝去 ※火火出見、高千穂宮(都城市/霧島市)で日神の政再現に励む 女王トヨ、晋に朝貢 ※火明饒速日、封禪して天神に昇る ※景行、倭王に就く ※倭迹迹日百襲姫、三代女王となる。氣息足姫(神功)、四代目に立つ ※景行、関東に兵を出し、日高見勢を仙台平野に追い払う 西南征夷将軍の彦狭嶋と共に熊襲征伐に赴くが、惨敗。 足掛け六年も抑留される。280年代前半に日向から帰国	司馬炎が魏帝を廃し、晋を建国 晋武帝、十一月に倭から貢物を受ける 翌月冬至の日に郊祭し、使節に謁見	
280 285 298 301 (辛酉年) 304	※磐余彦、火火出見を襲名し、高千穂宮(宮崎市)で和王に立つ 呉の鏡作り工を招き、葬送用八咫鏡(三角縁神獸鏡)を量産 仲哀、檀日に都を築き、神功・日本武・吉備津彦らと熊襲征伐に赴く 磐余彦、日本を討つべく東征。北九州席卷 女王の神功・日本武・吉備津彦・竹内宿禰を取り込む ※倭迹迹姫(倭姫)、五代女王に立つ 神功に新羅征伐、日本武に出雲征伐を下命。 吉備・出雲・播磨を攻略。古墳に勇士を葬り、三角縁神獸鏡を埋納 大日本国の長スネ彦・アビ彦を降す。饒速日の日本王朝打倒 ※アビ彦、東北に走り、日本将軍と語る 和の葬送儀礼でもって敵武将を黒塚古墳に埋葬 橿原宮の造営開始。日本武に北伐下命 (大和朝廷の時代) 磐余彦、神代と決別して大和朝廷を開き、初代天皇(神武)に即位 饒速日の兄・可美真手、物部氏となって海幸彦の誓約履行 ※饒速日、逝去。周濠を備える宝来(蓬莱)山古墳(奈良市)に眠る 田道間守、不老不死を叶えるミカンの木を西域から持ち帰る ※磐余彦、皇天(日神と高皇産靈)の斎場(柄鏡形の桜井茶臼山古墳)を鳥見山中に造営。 郊祭して皇天二神を天(日の天神)に配し、皇祖・皇宗に奉る。 ※磐余彦陵(柄鏡形のメスリ山古墳)、磐余地方に完成	晋、呉を滅ぼし中国を統一 以後、各地に古墳が造られ、磐余彦やヒミコの八咫鏡(共に三角縁神獸鏡)・魏帝鏡(方格規矩鏡)・鉄剣などが埋納される	田道間守、不老不死の仙薬を求めて西域に向かう